

「強くしなやかな消防庁舎」の整備に向けて 消防庁舎建設「基本計画」を策定しました



現在の消防庁舎(昭和 56 年竣工)

1 建設に向けた基本的な考え方

基本コンセプト 強くしなやかな消防庁舎

24時間体制で救急出動を含む各種災害に対応し、日頃から火災予防や防災に関する啓蒙を行い、地域社会の防災力の向上を図ります。

また、災害時には各行政機関と情報共有し早期復旧・復興を目指し、災害に強い『強くしなやかな消防庁舎』として、3大施設機能(Facilities)3Fに消防団施設を取り入れ整備いたします。

上士幌消防庁舎基本構想
スキーム図

現在の消防庁舎は、昭和 56 年に役場との合同庁舎として建設され
てから 37 年が経過しています。

平成 27 年に実施した耐震診断では、「倒壊危険あり」と判断され、大規
模災害時に消防機能が失われる可能性を有しています。

そこで、「第 5 期上士幌町総合計画」および「上士幌町の公共施設等配置計画に関わる整備方針」に基づき、各種調査や消防団などと意見交換を経て、昨年 11 月に「上士幌消防庁舎建設基本計画」を策定いたしました。

今後は、「基本設計」・「実施設計」の完了後に「建設工事」へと進めていくことになりますが、適宜、関係機関や町民のみなさまのご意見をお聞きしながら、よりよい消防庁舎をめざして進めてまいりたいと考えております。今回、「基本計画」の概要および「基本構想図」をお知らせいたします。不明な点や詳細についてお聞きしたいことがありましたら、担当までお問い合わせください。

2 建物延床面積 約 1,900m²

建設場所:上士幌クリニック様西側



今後も、消防庁舎の建設につきましては、広報や町のホームページ等で情報を公開していきます。

※お問合せは、消防課(☎ 2-2519)まで

上士幌消防庁舎基本構想

FIRE DEPARTMENT 3大施設機能～3 Facilities～

F 災害拠点施設 Disaster site Facilities

- ・安全で耐久性の高い構造
- ・情報化に対応し、災害を防止
- ・災害活動用資機材の集約・保管
- ・出動動線の確保と執務環境整備
- ・被災による消防機能の消失を防ぎ、継続した消防活動を保持

立地環境を活かし、消防署を中心とした複数の公共施設と連携することで、持続的な災害対策を展開できる。(生涯学習センター・交通ターミナル・スポーツセンター等)



【強くしなやかな消防庁舎】

町内の消防防災活動拠点施設であり、平常時から住民に対して防災力を提供できる災害時に強い施設として寄与する。



消防団活動の拠点施設としての機能強化

- ・教育、訓練機能
- ・情報発信機能
- ・出動待機室整備
- ・地域防災の強化
- ・女性の利便性向上



上士幌消防団

地域防災の中核を担い、火災や大規模災害時の迅速な避難誘導・支援及び救出活動を行う、代替性のない団体



F 訓練施設 Training Facilities

- ・実践的な消火訓練、救助訓練
- ・住民の防災教育
- ・住民の初期消火、救急訓練
- ・各種防火団体等の育成
- ・消防防災に関する行事



F 人と環境にやさしい施設 Everyone's Facilities

- ・ユニバーサルデザインの採用
- ・防災展示コーナーの設置
- ・一般利用可能なトレーニング室
- ・省電力、冷暖房効率に配慮
- ・窓口サービスの提供
- ・事務効率化の工夫



立地環境を最大限に活かした安全・安心の防災拠点として機能し、平常時は自主防災意識や地域住民などの教育・訓練、集いの場として、町民に開かれた消防防災施設を整備する。



FIRE&RESCUE
KAMISHIHORO
FIRE DEPARTMENT 119

●公共施設としての位置づけ（上士幌町の公共施設等配置計画に関わる整備方針より）

セントラルベルトでは、多世代交流拠点、修学拠点、レクリエーション拠点、交通拠点、商業・まち中居住拠点、運動・健康維持拠点、および積極的未利用地を定めてきたが、将来の安全・安心な町民生活を確かなものとすべく、防災・安全機能の充実が求められる。

防災・安全拠点の要として、消防署が果たすべき役割が重要であることは言うまでもなく、特に救急救命および防災・災害復旧において、効果的・効率的に機能することが求められる。

新消防署の建設にあたっては、拙速な移転は可能な限り避け、将来数十年先の生活の質の向上に資するセントラルベルトへ積極的に貢献するビジョンを持った整備計画が望まれる。